

【-1】 機能性食品 Active Hexose Correlated Compound (AHCC)の肝細胞癌術後補助療法としての効果

○川口雄才、松井陽一、上山泰男¹⁾、小砂憲一²⁾

(¹⁾ 関西医科大学第一外科)

(²⁾ アミノアップ化学株式会社)

肝細胞癌は外科的切除が最も効果的な治療法である。しかし切除後再発率は高頻度であり、さらに化学療法などの術後補助療法として有効なものはほとんど無いのが現状である。Active Hexose Correlated Compound (AHCC) は数種類の担子菌類から抽出した複合物質であり、民間療法では慢性肝炎や糖尿病に効果があるといわれている。当科では肝細胞癌の術後補助療法として1993年頃より使用を始め、食欲増進や全身状態の改善などの印象がみられたため使用を継続しており、今回retrospectiveに調査を行った。対象は1992年2月から2000年3月まで当科にて肝細胞癌に対し肝切除を行い、肉眼的治癒切除で組織学的に肝細胞癌の診断がついた194例とした。この内、術死3例、入院死7例、同時性または異時性の重複癌13例、退院直後から追跡調査不明4例の計27例を除外した。残り167例中、術後経口摂取開始と同時にAHCCを1日3~6g経口投与開始した83例をAHCC群、投与しなかった84例をcontrol群としretrospectiveに検討を行った。両群間の患者の背景因子に有意差は認められなかった。これに対し、無再発生存率及び生存率においてAHCC群が有意に良好であった。2000年3月現在、観察中央値はAHCC群26カ月、control群31カ月であり、5年生存率はAHCC群60.7%、control群41.3%、生存率中央値はAHCC群68.5カ月、control群46カ月であった。また血清中のGOT, γ -GTP, Bilirubin値が術後4年まで有意に改善されていた。AHCCは分子量約5000の多糖類を豊富に含み、活性物質として α -1,4-グルカンが考えられているため、従来のクレスチンやPSKなどと同様にBiological Response Modifierとしての作用が期待できる新しい機能性食品と思われる。肝細胞癌術後補助療法としてのAHCC投与が、肝炎を改善しさらに生存率を延長する可能性が示唆された。